

### 3章 みやぎ園芸特産振興戦略プランが目指すもの

#### 1 「園芸特産振興プラン」のスローガンと目指すべき姿

##### 【スローガン】

「先進的園芸経営体と共に切り拓く、新しいみやぎの園芸産地の確立」

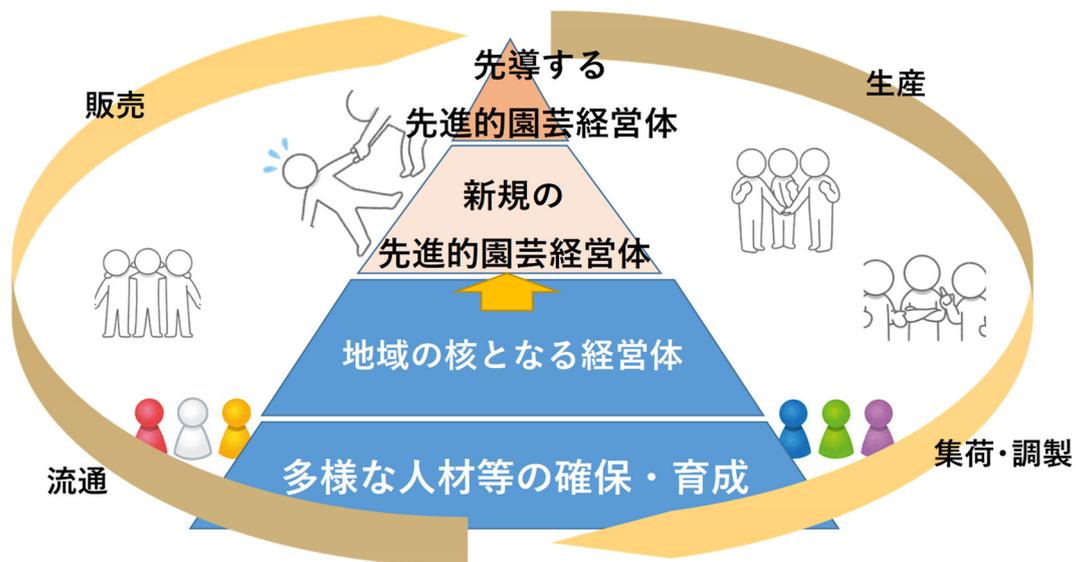
～みやぎの園芸産出額倍増に向けて～

##### 【目指すべき姿】

- 先進技術を駆使し、気候変動に対応した全国トップレベルの施設園芸
- 地域の核となる担い手による収益性の高い大規模露地園芸

##### 【スローガン】

○ 本県園芸特産の取組を先導する先進的園芸経営体が、既存経営体や多様な人材、関連企業等と協力しながら産地をけん引することで、新たな本県園芸特産産地を切り拓き、園芸産出額倍増に向けて取組を進めます。

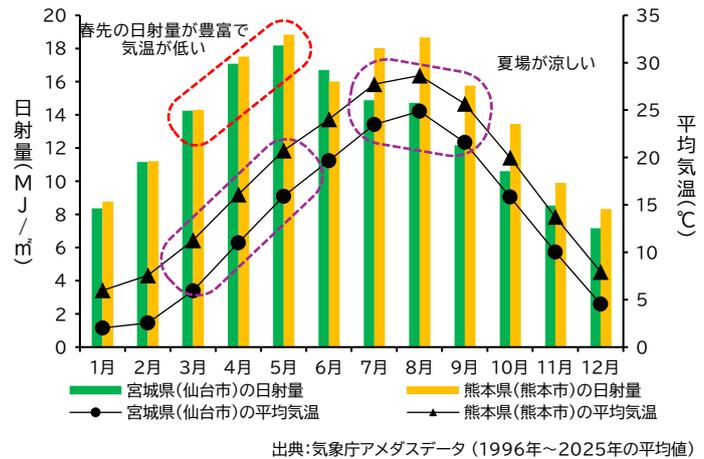


担い手による園芸振興イメージ図

## 【目指すべき姿】

### ■ 先進技術を駆使し、気候変動に対応した全国トップレベルの施設園芸

○大規模で先進的な園芸施設整備と雇用を前提とした先進的園芸経営体が全県的に増加しています。近年は夏季高温等の気候変動への対応が急務となっていますが、本県の夏季は、西南団地や九州よりも比較的冷涼で、冬季は、温暖かつ降雪が少ないという、施設園芸に適した自然条件を生かし、県全域に高度な環境制御等の先進技術導入を進めることで、単収の向上を目指します。



施設園芸に適した宮城県の気象条件

○本県は、養液栽培面積が全国第1位、高度環境制御装置設置面積が全国第2位となっています。このような全国に誇る技術の更なる向上と面的拡大により、全国トップレベルの施設園芸の産地化を図ります。

○これらの取組を県内一円に展開するため、先進的園芸経営体や志向者の育成、技術・経営能力向上に向けた研修会の開催、現地巡回指導、生産者間のネットワークを通じた技術向上、情報提供や現地実証等を積極的に行うとともに、企業参入の促進、食品関連産業との連携強化、関係機関の指導者養成を行い、支援体制の強化を図ります。

### ■ 地域の核となる担い手による収益性の高い大規模露地園芸

○全国トップクラスである水田の大区画整備率の強みを生かしながら、米から園芸特産物への転換を強化し、露地園芸品目の生産拡大を図ります。

○今後の担い手減少が見込まれる中、地域の核となる担い手を中心に施策を集中しつつ農地集積・集約を促進しながら、機械化一貫体系やスマート農業技術の導入促進のほか、出荷・調製作業の分業化を進めることで、大規模生産への取組を推進します。

○実需者ニーズに応じた加工・業務用野菜の契約栽培の取組によって、経営の安定化を図るため、県内の地域間連携による安定出荷体制と生産から流通・販売までの園芸サプライチェーン<sup>注8)</sup>構築の取組を進めます。

注 8)園芸サプライチェーン:サプライチェーン・コールドチェーン・バリューチェーンから構成される商品・サービスを顧客に提供するための原材料調達から生産・加工・流通に至る一連の事業活動の流れや仕組みを指す。

## 2 園芸特産振興の基本方針

○本県園芸特産の目指すべき姿の実現と社会環境の変化に伴って顕在化してきた課題に柔軟に対処するため、4つの基本方針と11の振興方策を定め、施策を推進します。

### 【園芸特産振興プランの4つの基本方針と11の振興方策】

基本方針1 先進技術を駆使した施設園芸の推進	
振興方策	具体的推進内容
(1)いちご100億円産地の育成	ア 多収性品種の導入や作期拡大による単収向上 イ 栽培面積拡大に向けた新規栽培者等の確保・育成 ウ 新規需要の拡大に向けた販売促進と輸出体制の整備
(2)先進技術を活用した施設園芸産地の拡大	ア 重点振興品目等の生産拡大による産地発展 イ 重点振興品目等における先進技術の開発と普及・拡大
(3)先進的園芸経営体の育成	ア 統合環境制御機器を導入した施設園芸経営体の育成 イ 環境制御技術及びデータの活用による生産性と品質の向上 ウ 先進的園芸経営体における栽培管理者及び技術指導者の育成 エ ネットワーク活動の推進による先進技術の普及・拡大
(4)気候変動や環境負荷低減等に対応した次世代の施設園芸の推進	ア スマート農業技術導入による先進的園芸の推進 イ 気候変動に対応した施設園芸の推進 ウ 環境負荷低減を取り入れた施設園芸の推進

基本方針2 大区画ほ場等を活用した露地園芸の推進	
振興方策	具体的推進内容
(1)水田等における収益性の高い園芸作物の推進	ア 水田等における重点振興品目生産の推進と気候変動等に対応した安定生産技術の確立 イ 地域間連携等による加工・業務用園芸団地の育成・拡大
(2)地域をけん引する経営体を核とした露地園芸の振興	ア 農地集積・集約や農地整備事業等における露地園芸団地の創出 イ 地域の核となる大規模露地園芸経営体の育成
(3)効率的な作業体系の推進	ア スマート農業技術導入等による機械化一貫体系推進や省力化・効率的生産の推進 イ 露地園芸の効率化等に向けた生産体制の整備

基本方針3 食品関連産業等との連携による園芸サプライチェーンの構築	
振興方策	具体的推進内容
(1)食品関連産業等との連携促進	ア サプライチェーンの確立による園芸産地の拡大と付加価値創出 イ 出荷規格や出荷調製等、物流システムの改善による効率的な安定供給体制の確立
(2)多様なニーズに対応できる園芸・特用林産の産地強化	ア 気候変動や消費ニーズの変化に応じた販路開拓や販売形態の構築 イ 国内外の多様なニーズに対応できる取組の支援 ウ 地産地消の推進と消費者への理解促進による県産食材の認知度向上 エ GAPの導入推進や放射性物質検査等による安全な食の確保

基本方針4 園芸産地の発展に向けた多様な人材等の確保・育成	
振興方策	具体的推進内容
(1)多様な人材等の活用促進	ア 新規就農者・認定農業者等の確保と営農支援 イ 農福連携や外国人材等多様な人材の活用 ウ 各種セーフティネット等の活用による経営基盤の強化
(2)企業参入による園芸生産の拡大	ア 園芸産地の拡大に向けた企業誘致体制の強化 イ 参入企業との連携による園芸生産の拡大

### 3 推進目標及び指標

#### (1)「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」での目標値との関連

- 「第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画」では、食、農業及び農村に関する主要な目標の一つとして、園芸産出額を500億円、推進指標において先進的園芸経営体数140経営体を目標に掲げています。

単位：産出額(億円)、先進的園芸経営体数(経営体数)

	基準年 (R5)	第3期みやぎ食と農の県民条例 基本計画目標(R12)
園芸産出額	324	500
先進的園芸経営体数	99	140

出典：産出額；生産所得統計(農林水産省)、先進的園芸経営体数；宮城県調べ

- そのため、「園芸特産振興プラン」の令和12年度推進目標は、園芸産出額500億円、先進的園芸経営体数140経営体とします。

#### (2)基本的な推進目標

単位：産出額(億円)、先進的園芸経営体数(経営体数)

目標項目	基準年 (R5) A	中間目標年(R10)	目標年 (R12) B	基準年比 B/A
園芸特産産出額	364	491	544	149%
うち園芸産出額	324	449	500	154%
野菜	280	395	441	156%
花き	25	28	30	120%
果樹	19	26	29	153%
うち特用林産物	40	42	44	110%
先進的園芸経営体数	99	129	140	141%

出典：産出額；生産農業所得統計(農林水産省)、先進的園芸経営体数；宮城県調べ

補足) 令和12年度目標は、以下の考え方により設定した。

- 野菜は、環境制御技術の導入等による単収の増加及び新規経営体増加により産出額が増加。  
花きは、規格の見直し等による単価上昇及び新規品目により産出額が増加。果樹は、担い手への集約による栽培面積の増加及び単収向上により産出額が増加。加えて、水田における高収益作物生産増加及び加工・業務用野菜等の契約栽培増加により産出額が増加。
- 特用林産物は、生産効率の向上、新規参入及び放射性物質被害からの回復により産出額が増加。
- 園芸に取り組む認定農業者等の規模拡大、新規に園芸品目に取り組む新規就農者及び新規企業参入等が増加。野菜の産出額に新規企業参入30億円を含む。

(3)最重点・重点振興品目の品目別の推進目標

		生産面積(ha)				産出額(億円)			
		基準年 (R5)	中間目標年 (R10)	目標年 (R12)	増減	基準年 (R5)	中間目標年 (R10)	目標年 (R12)	増減
		A		B	B-A	A		B	B-A
野菜	いちご	136	138	140	4	67	91	100	33
	ばれいしょ	474	568	606	132	4	8	9	5
	たまねぎ	185 <sup>※1</sup>	188	189	4	2	3	4	2
	さつまいも	56	77	85	29	2	3	4	2
	きゅうり	359	359	359	0	33	48	54	21
	トマト	212	212	212	0	24	40	46	22
	ほうれんそう	330	330	330	0	12	13	14	2
	ねぎ類	607	607	607	0	32	44	49	17
	パプリカ	12	12	12	0	8	9	10	2
	キャベツ	310	310	310	0	3	4	4	1
	えだまめ	305	312	314	9	5	6	7	2
	レタス	138 <sup>※1</sup>	138	138	0	10	15	17	7
	せり	24 <sup>※1</sup>	24	24	0	7	9	10	3
	ブロッコリー	119 <sup>※1</sup>	136	143	24	2	6	7	5
	計	3,267	3411	3,469	202	211	300	335	124
花き	輪ぎく	27	27	27	0	4	5	6	2
	スプレーぎく	13	13	13	0	3	3	3	0
	鉢もの類・ 花壇用苗もの類	27	27	27	0	10	11	12	2
	計	67	67	67	0	17	20	21	4
果樹	りんご	175	175	175	0	4	8	9	5
	日本なし	135	135	135	0	7	9	10	3
	ぶどう	42 <sup>※2</sup>	51	63	21	1	5	6	5
	計	352	361	373	21	12	21	25	13
特用 林産物	しいたけ <sup>※3</sup>	935 <sup>※4</sup>	1,236 <sup>※4</sup>	1,337 <sup>※4</sup>	402	9	11	13	4

出典：生産面積；野菜生産出荷統計（農林水産省）、作物統計調査（さつまいものみ）（農林水産省）、地域特産野菜状況調査（せりのみ）（農林水産省）、花き産業振興総合調査（宮城県調べ）、果樹生産出荷統計（農林水産省）、特用林産物生産統計調査（林野庁）。産出額；生産農業所得統計（農林水産省）、花き産業振興総合調査（宮城県調べ）、林業産出額（農林水産省）。

※1 隔年調査または本県が隔年調査対象のため、令和4年の値。

※2 本県が隔年調査対象のため、令和2年の値。

※3 しいたけは、原木しいたけ、菌床しいたけ、干しいたけの合計の値。

※4 生産量(t)

(4)基本方針ごとの推進指標

基本方針	振興方策	推進指標	基準年 (R5)	目標年 (R12)	基準年比 (R12/R5)
1 先進技術を駆使した施設園芸の推進	(1)いちご100億円産地の育成	いちご産出額(億円)	67	100	149%
		県育成品種面積(いちご「にこにこベリー」)(ha)	19	30	158%
	(2)先進技術を活用した施設園芸産地の拡大	最重点・重点振興品目の産出額(億円) *施設を主とする品目(※1)	181	281	155%
		高度環境制御機器設置面積(ha)	52	80	154%
	(3)先進的園芸経営体の育成	園芸施設設置面積(ha)	1,026	1,100	107%
養液栽培面積(ha)		170	194	114%	
(4)気候変動や環境負荷低減等に対応した次世代の施設園芸の推進	高温対策・環境負荷低減技術新規導入数(件)	-	25	-	
2 大区画ほ場等を活用した露地園芸の推進	(1)水田等における収益性の高い園芸作物の推進	水田における園芸作物の作付面積(ha)	3,345	4,240	127%
		加工・業務用野菜の取組面積(ha)	298	790	265%
		重点振興品目の産出額(億円) *露地を主とする品目(※2)	68	113	166%
	(2)地域をけん引する経営体を核とした露地園芸の振興	農地整備事業計画における高収益作物導入新規地区数(地区)	23	60	260%
		大規模露地園芸経営体数(経営体数)	8	13	163%
(3)効率的な作業体系の推進	新規導入機械・施設取組経営体数(経営体数)	-	22	-	
3 食品関連産業等との連携による園芸サプライチェーンの構築	(1)食品関連産業等との連携促進	集出荷調製施設導入地域数(事業導入数)	5	10	200%
		農産物直売所販売額(億円)	128	170	133%
	(2)多様なニーズに対応できる園芸・特用林産の産地強化	国際水準 GAP 導入・認証総数(園芸)(件)	23	60	261%
		特用林産物の放射性物質検査計画に対する実施率(%)	78	100	128%
4 園芸産地の発展に向けた多様な人材等の確保・育成	(1)多様な人材等の活用促進	年間新規就農者数(園芸)(人)	71	85	120%
		県内への農業参入数(園芸)(件)	7	15	214%
	(2)企業参入による園芸生産の拡大	訪問・相談企業数(園芸)(件)	-	100	-

※1 いちご、きゅうり、トマト、ほうれんそう、パプリカ、レタス、輪ぎく、スプレーぎく、鉢もの類、花壇用苗もの、ぶどう、しいたけ

※2 ねぎ類、たまねぎ、キャベツ、えだまめ、ばれいしょ、せり、さつまいも、ブロッコリー、りんご、日本なし